



広域化される地方行政

石岡地方広域振興協議会

設置される

このほど当市を中心に、八郷町、千代田村、玉里村を箇組として「石岡地方広域振興協議会」が発足しました。この協議会は、市町村行政の広域化をはかるため、広域振興計画の策定及びその実施についての連絡調整を図る目的で、十一月一日、当市役所会議室において、関係市町村長及び同協議会長などが集まり、結成されたもので、会長に石岡市長（大和田健三郎氏）、副会長に玉里村長（野口一氏）、監事に千代田村協議会議長（井坂庄平氏）、八郷町協議会議長（桜井浩蔵氏）がそれぞれ選ばれました。

広域計画はなぜ必要か

最近における、わが国経済の高度成長に伴い、大都市における過密の弊害と、地域間産業間格差の是正とが大きな問題となっております。その解決のために、国においては全国総合開発計画、新産業都市建設基本計画、工業整備特別地域整備基本計画、その他一連の開発計画が推進されており、本県においても、総合振興計画を策定し、この推進をはかっております。

このような地域開発計画は、いずれも広域にわたる開発計画であって、既存の行政区域をこえて計画し、実施しなければならぬ分野が非常に多くなつてきています。

たとえば、土地利用をどうするか、産業の理想的な配置

はどうすればよいか、道路・農（工）業用水などをとりあげ、学校・上下水道・衛生施設はどう考えていくか等、どれをとりあげても市町村の区域を超えて広域にわたる計画が必要です。

この現実を際して、市町村においては、流動する社会経済情勢を改めて見直し、広域的視野において、地域の立地条件と開発の可能性と方向を真剣に考へざるを得なくなつてきているといえましょう。

一方、市町村の一般行政についてみれば、急速な社会経済の発展にともない住民の生活内容も変化し、住民意識の向上と相まって市町村に対する行政需要は年々拡大し、高度化しつつあり、なかでも、

社会福祉施設、環境衛生施設など、地域住民の生活に密着した社会資本の整備拡充への要望は、極めて強まってきております。

このような住民の要望に応じて、市町村がこれらの事業をすべて行ない、その維持管理をはかることは、財政力その他の理由から単独実施は次第にむずかしくなつてきています。しかし、これらの事業の中には、規模の小さい市町村が、共同して行なうことに

より解決できるものが数多くあると思われ、また現に市町村が単独で処理しているもので、数市町村が共同して行なえば、その内容がより高度にそしてより経済的に処理できる事業も多いでしょう。

また、最近の市町村の行政事務は、ますます複雑化し、専門化の傾向をたどつていますが、この傾向に対して事務

の機械化等の方法が考えられなければならぬ、複雑専門化した事務を能率的に処理するためには機関の共同設置事務委託等によって事務の共同処理、広域的処理を考えなければならぬでしょう。

さらに、中には各市町村間で同一水準の行政を維持しなければならぬ事務があり、また同一歩調で実施しなければ意味のない行政分野も多いため、Aの村では病虫害防除を積極的に実施しても、隣接のBの町で全く放任した結果その境界に接する部落が、Bの町の地域の影響を受けて、折角の防除措置の効果は半減したとかいうような事例は、数多く体験していることであり、これらはすべて、市町村が連絡協同することによって、問題を解決することができるものです。

以上に述べたような、現在の市町村行政の中で、その行政区域を超えて広域的に処理すべき行政需要の増大に対処するために、自然的にも、結びつきの強い市町村が、その地域共通の問題を真剣にとりあげ、相協力して施策を実行する体制をつくることが必要であり、この協同意識をもととして、地域共通の問題究明と、これを解決するための施策等を内容とする広域計画を樹立し、その計画の実現に積極的に取り組むべきであると考えられるからです。

家ねずみ一掃をはかる運動

にご協力を!!

市では、最近大きな被害をあたえている「家ねずみ」の一斉駆除をするため、十二月十五日から来年一月三十一日まで市内全域にわたって「家ねずみ一掃をはかる運動」を展開いたします。

ねずみは、高等動物でその駆除には相当な計画性と技術

ねずみ駆除のねらい

▽ ねずみの性質や生活をよく知り、それを利用して科学的な駆除計画をたてること。

▽ ねずみが繁殖できないように

農地被買収者等に対する給付金制度は、戦後農地改革によって、九十九平方メートル（一畝歩）以上の農地（田・畑）を買収された者、またはその遺族、一般承継人に対して、記名国債（十年償還）で給付金を支給されるものです。

支給される金額は、買収された農地（田・畑）面積九百九十平方メートル（一反歩）につき二万円です。

ただし、畑については買収された表面積の六割が支給の対象となります。

また、買収された者が買受けた場合にも、農地報償の請求はお済みですか

は、買収された面積から買受けた面積を差引いた面積が、支給の対象となります。

申請期間は来年三月三十一日までですが、これを過ぎると無効になりますから、なるべく早めに申請してください。

市農業委員会では、この事務局におたづねください。

が必要で、ただ慢然と殺毒剤を使用しただけでは期待したほどの効果はありません。

また、いくら一部の個人が熱心でも地域の共同駆除がなければ水統的な効果が上りません。したがって、次の要領でねずみの撲滅をはかるよう、ご協力をお願いします。

毒餌の仕掛けかた

▽ 人家、耕地、山林のあらゆるねずみを地区の人々が共同して一斉駆除すること。

ねずみは、道路上に餌を置かれると警戒心を起して食べないので、ねずみの通路より二十センチ〜三十センチ離れたところや、ねずみの出入りする穴に板を立てかけ、その裏側（穴に近い方）に置く。

または餌箱を作ってそれに入

れる。お勝手の揚げ板の下、流しの下などを中心にして置いた方が良く、柵の上や天井裏は避けます。ねずみは、環境に馴れやすい反面変わった環境にも非常に敏感で、器物などの置場所が変わっただけでもしばらくその付近に近寄らないほど用心深い動物ですから毒餌を配膳するときは特別に掃除したり、器物を整理したりすると毒餌を食べませんので、平常の状態のまま毒餌を配置する。餌を配置した翌朝はその場所を検査し、食われた数を補充して、これを三日〜四日くり返し行なう。納屋、食糧庫などに置くときは物の上や俵の上に置かないでなるべく物かけの床におくようにする。

ご協力ありがとうございました

—— 姿を消す石岡公民館 ——

市社会教育の唯一の殿堂として、市民から愛されてきた石岡公民館が、市民会館建設のため、このほど取りこわされることになりました。

石岡公民館は、昭和二十九年に、青年学校などに使用されてきた古い建物を改造したもので、現在までの十二年間市民の實際生活に即する教育・学術および文化に関する事業を行ない、市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化などをばかり、生活文化の振興と社会福祉の増進に努めて参りました。

石岡公民館の改造、備品の整備、および運営につきましては、多数の皆様のご協力をいただきました。

城南中が優勝

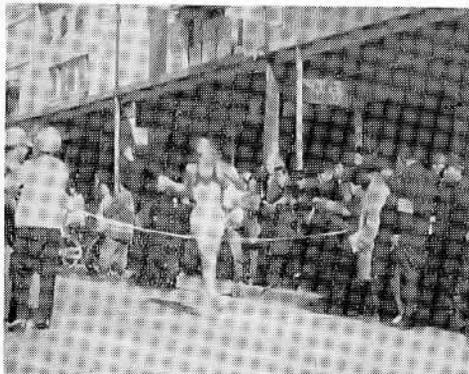
第17回石岡駅伝競走

第十七回石岡駅伝競走は、十二月三日、石岡市柿岡間往復二十五・六キロメートル十区間のコースで、中学校二十チーム、青年八チームが参加して行なわれまして、この日は快晴に恵まれ、絶好のコンディションのもと、日頃きたえられた二百八十名の若人

によって競われ、中学校の部では城南中、青年の部では那珂湊青年がそれぞれ優勝いたしました。

成績は次のとおりです。

- ◎中学校の部
 - 優勝・城南中学校 一時間一七分二〇秒、二位・平磯中学校 一時間一七分三九秒、三位・下館中学校 一時間一八分三九秒、四位・石岡中学校 一時間一八分四四秒、五位・下館中学校 一時間一八分五〇秒
- ◎青年の部
 - 優勝・那珂湊青年 一時間一七分二三秒、二位・石岡青年B 一時間一八分三〇秒、三位・桃山青年 一時間二五分二九秒



【写真はゴールのテープを切る城南中】

市消防ポンプ操法競技大会

第三回

開かれる

第三回市消防ポンプ操法競技大会は、石岡市・市消防本部・市消防署共催により、晴天に恵まれた十一月二十七日、石岡小学校々庭において、消防職員約四百五十名ほか

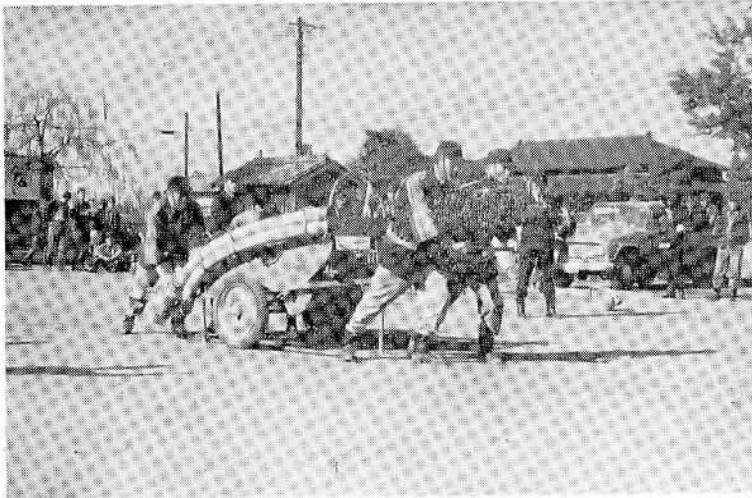
防職団員の規律正しい消防技術を練成し、団体行動の敏捷な要求に適應せしめることを目的として昭和三十九年から毎年開かれているものです。

来賓多数が参加し、秋期点検終了後盛大に開かれ、日頃の腕を競い合いました。

この競技大会は、秋の火災予防運動(十一月二十六日～十二月二日)にちなんで、消防職員の規律正しい消防技術

今年開かれては、日頃の訓練の成果があらわれ、全般にかなり上達しており、特に可搬式動力ポンプの操法技術が目立ち、今後の消防活動に大きな期待が寄せられます。なお、成績は次のとおりです。

【写真は消防ポンプ(可搬式)操法競技】



- ◇自動車ポンプの部
 - 優勝 才六分団
 - 才二位 才四分団
 - 才三位 才二分団
- ◇可搬式動力ポンプの部
 - 優勝 特別工作班
 - 才二位 才七分団
 - 才三位 才二十二分団
 - 才四位 才二十分団
 - 才五位 才二十一分団
 - 才六位 才十一分団
 - 敢闘賞 才十五分団
 - 努力賞 才十四分団

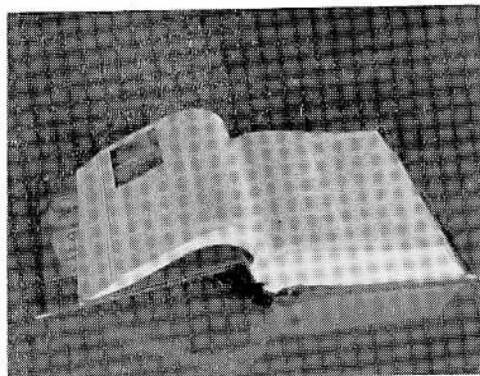
年末の犯罪防止

年の瀬のあわただしさとともに例年多くなるのが犯罪。ご注意ください。

- ▼ひったくり
- ▼すりの用心
- ▼あきすねらい
- ▼寸借さき・押しうり

ふだんより三割ぐらい多いといふことです。せわしさからスキがでてきてそこをつけこまれますから、次の点に特に

「読書」をしましよ



市立図書館のご利用を

最近テレビの普及がいちいちるしく、そのため、つい読書を忘れてがちの人もあるようです。勿論、テレビは日常生活に欠くことのできない重要なものであります。しかし、そうかと言ってテレビだけにたよ

最近テレビの普及がいちいちるしく、そのため、つい読書を忘れてがちの人もあるようです。読書は、私たちの心に落着きと考える力をあたえていくものです。テレビが発達すればする程、読書の重要性が強調されねばならないと思えます。

- 市立図書館には、現在約一万二千冊の蔵書がありますがさらに今年度も一千冊以上の新しい本を購入することになっております。
- みなさんの娯楽に、教養に職場の研修に大いに図書館を利用し、冬の夜を過ごしていただきたいと思います。
- 図書館の利用には、次のような方法があります。
- ☑館内でのえつ覧

読みたい本を館内で自由に選んで閲覧することができます。
- ☑館外貸出

お仕事の合間に家で読みたいかたのために館外貸出しも行なっています。
- ☑巡回文庫

館外奉仕の一つとして、文庫を市内三十三か所(事業所、団体など)に広報車を使って毎月一回巡回し配布しております。手近なところにありますので利用されるのも便利です。
- ☑レファレンス奉仕

図書館の職員がレファレンス奉仕(照会相談)も行なっています。

なお、市立図書館は、このほど石岡小学校々舎の一部(石岡小学校プール前)へ移転いたしました。

